



河野 眞 (こうの しん) 教授

1946年（昭和21年）兵庫県伊丹市生まれ

学 歴

1965年 3月	伊丹市立伊丹高等学校卒業
1965年 4月	京都大学文学部入学
1970年 3月	京都大学文学部卒業
1970年 4月	京都大学大学院文学研究科入学
1972年 3月	京都大学大学院文学研究科修士課程修了（修士学位取得）

職 歴

1972年 4月	愛知大学教養部講師
1978年 4月	愛知大学教養部助教授
1991年 4月	愛知大学教養部教授
1998年 4月	愛知大学国際コミュニケーション学部教授（現在に至る）

学位：博士（文学／京都大学）2006年 3月

主な教育研究業績

《著書》

『ドイツ民俗学とナチズム』	単著	2005年 8 月	創土社
『フォークロリズムからみた今日の民俗文化』	単著	2012年 3 月	創土社
『民俗学のかたち—ドイツ語圏の学史に探る』	単著	2014年 3 月	創土社
『ドイツ文学と民俗学—ファウストとシンデレラ』	単著	2016年 3 月	創土社
『ドイツ民藝論—考察と資料』	単著	2017年 2 月	創土社

《訳書》

レーオポルト・クレツェンバッハー『民衆バロックと郷土—南東アルプス文化史紀行』	単著	1988年10月	名古屋大学出版会
レーオポルト・シュミット『オーストリア民俗学の歴史』	単著	1992年 3 月	名著出版
ルードルフ・クリス／レンツ・クリス＝レッテンベック『ヨーロッパの巡礼地』	単著	2004年 3 月	文楨堂
ヘルマン・パウジンガー著『科学技術世界のなかの民俗文化』	単著	2005年 3 月	文楨堂
ヘルベルト・シュヴェート & エルケ・シュヴェート『南西ドイツ シュヴァーベン民俗—一年中行事と人生儀礼』	単著	2009年 3 月	文楨堂
ヘルマン・パウジンガー『フォルクスクンデ—ドイツ民俗学—上古学の克服から文化分析の方法へ』	単著	2010年 3 月	文楨堂
インゲボルク・ヴェーバー＝ケラーマン／アンドレアス・C. ビマー／ジークフリート・ベッカー『ヨーロッパ・エスノロジーの形成—ドイツ民俗学史』	単著	2011年 3 月	文楨堂
ヘルマン・パウジンガー『ドイツ人はどこまでドイツ的？—国民性をめぐるステレオタイプ・イメージの虚実と因由』	単著	2012年 3 月	文楨堂
カール＝ジーギスムント・クラマー『法民俗学の輪郭—中世以後のドイツ語圏における町村体と民衆生活のモデル』	単著	2015年 3 月	文楨堂
《文部省科学研究費研究報告書》(研究代表者)			
『西ヨーロッパの民衆文化—教会民俗と巡礼地習俗を中心に』	共著	1985年9月	
『ドイツ民俗学とナチズム—第二次大戦後のドイツ民俗学の展開とナチズム問題—』	単著	1994年 3 月	

付記：諸誌に発表された論文・翻訳・エッセイなどの目録は、愛知大学・語学教育研究室『言語と文化』第36号(2017年 3 月)を参照